

# 国際化・文化分野

みなとタウンフォーラム  
第5グループ

## 第5グループ[メンバー]

朝山 絵里	及川 廣子	佐伯 康雄
佐古田 明	長野 公則	新部 遥希
平澤 富吉	忞山 淳子	山岡 敬明

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

# 提言にあたって

## 第5グループ【国際化・文化分野】

私たち第5グループでは、国際化と文化芸術の2つのテーマを設定し、国際化では「外国人へのサポートの充実」、文化芸術では「文化芸術に触れる機会の創出と支援」について議論を重ねました。

国際化、文化芸術ともに、ウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染症による国際的なパンデミックなど、国際情勢の激動により大きな影響が及んでいます。

加えて、デジタル化が進む社会において、情報発信や収集のあり方も大きく変化しています。

これらの社会変化を踏まえ、国際化と文化芸術に関する提言を考えました。

国際化のテーマに「外国人へのサポートの充実」を取り上げた理由は、多民族化する社会の中で、文化・習慣・宗教の違いによる価値観の相違や行政サービスに対する言葉の壁、また、これにより生じる孤立化・孤独化を課題として認識したためです。

課題の解決に向けて「外国人の相互理解の促進」「外国人に向けた丁寧な情報発信」「外国人の居場所づくり」を施策の方向性として位置づけ、日本人と外国人が垣根を越え相互に理解し、外国人も幸せに暮らすことができるための取組となるよう、意見交換を重ねました。

文化芸術のテーマである「文化芸術に触れ

る機会の創出と支援」については、「文化芸術活動家や区民等に向けた機会の提供」「文化芸術活動家への支援や相談場所の充実」を施策の方向性として位置づけ、誰もが日常的に文化芸術に触れる機会があり、かつ、文化芸術活動家もいきいきと力を発揮できる環境を整備するための取組となるよう、意見交換を重ねました。

また、文化芸術に関する情報発信については、発信はされているが情報が多すぎて把握できないという、社会変化を踏まえた視点での意見を取り入れ、「文化芸術の活動家や区民等に確実に届く情報発信」として施策の方向性に位置づけました。

国際化・文化グループは、本提言を通じて、あらゆる人々が寄り添い、自分らしさを発揮できるまちが実現することを願っています。

この想いに至った理由は、日々、激動する社会情勢の中でも、変わることなく多様性を尊重し合えることが重要と考えたからです。

ウクライナ侵攻をはじめとする国際的な危機や、デジタル化の加速など、我々を取り巻く環境は刻々と変化しています。

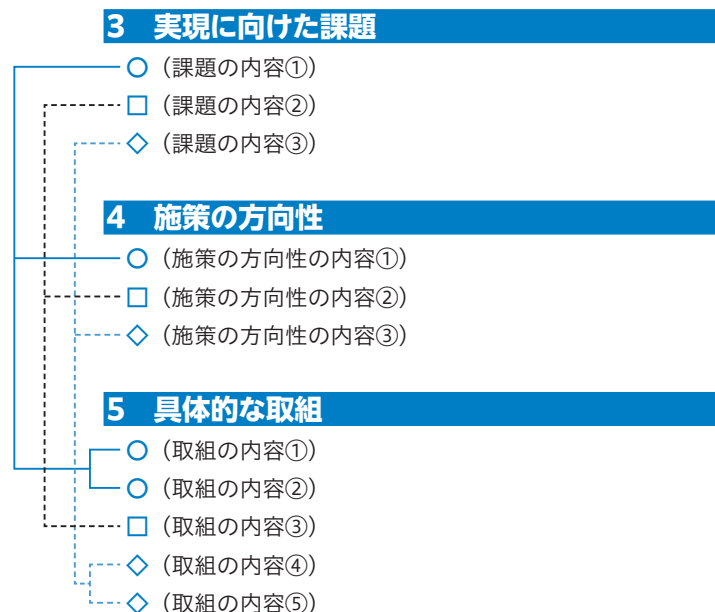
この提言が、港区基本計画に反映されることで、誰もが国籍や文化などの垣根を越えて助け合い、安心して心豊かに暮らせることを願っています。

# 提言の体系

具体的な取組	
<b>【テーマ1】</b> 外国人へのサポート の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタルを活用した言葉の支援</li> <li>● 「やさしい日本語」の浸透</li> <li>● 互いの言語に興味を持てる環境づくり</li> <li>● 外国人が容易に情報収集できるサービスの提供</li> <li>● 様々な特性を持った外国人の居場所づくり</li> </ul>
<b>【テーマ2】</b> 文化芸術に触れる機 会の創出と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化芸術を創造し、享受できる機会の創出</li> <li>● 文化芸術活動家がチャレンジしやすい環境の整備</li> <li>● 文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信の工夫</li> </ul>

## 提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号（○、□、◇等）によって関連性を明らかにしています。



第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境・リサイクル分野】

第4グループ  
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】

# 外国人へのサポートの充実

## 1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

**「多様な文化の人々と自然にふれ合い、思いやりや活気に溢れ、誰もが安心して自分らしさを発揮できるまち」**

個性や能力など「個」の力が、国籍や文化などの違いを問わず活かされ、誰もが「集まりたい」「住みたい」と思えるよう、人々が助け合い、外国人も幸せに暮らせる魅力的な国際都市を目指す。

## 2 踏まえるべき社会変化

### 激動する国際情勢

- ・ウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染症をはじめとする国際的なパンデミックなど、国際情勢の激動により、経済やインバウンドなど様々な場面で変化が生じている。

### 多民族化社会

- ・入管法の改正等により、様々な背景を持ったより多くの外国人が、日本で生活できる環境の整備が進んでいる。

### デジタル化

- ・IoTやAIの推進により、情報のデジタル化が加速している。

### 3 実現に向けた課題

#### ○価値観の相違

- 円滑なコミュニケーションをするための言葉の壁がある。
- 多民族化するなかで、英語や日本語以外のコミュニケーションも必要である。
- 言葉を理解できたとしても、文化・習慣・宗教による考え方の違いを十分に理解できないため、価値観に相違が生まれる。

#### □理解しやすい情報発信

- 外国人が本当に必要とする情報が何かを区が理解する必要がある。
- 本来受けられるはずの行政サービスについて認知度が低く、外国人が適切にサービスを受けることが難しくなっている。
- 行政サービスに関する広報が多様化しているため、情報をワンストップで得られるように整理をする必要がある。

#### ◇孤立化・孤独化

- 日本人と外国人、あるいは外国人同士で交流する機会をさらに充実させる必要がある。
- 外国人の児童や高齢者などへの心のケアを十分に行う必要がある。

### 4 施策の方向性

#### ○外国人との相互理解の促進

- 円滑なコミュニケーションを図るため、デジタルアプリの活用や「やさしい日本語」の普及啓発を通じて相互理解の場を設け、お互いの価値観を共有する。

#### □外国人に向けた丁寧な情報発信を行う

- 情報伝達の方法を改善し、外国人が容易に行政サービスにアクセスできるようにする。

#### ◇外国人の居場所づくり

- 外国人同士や、外国人と日本人と一緒に参加できるような場を設ける。

## 5 具体的な取組

### ○デジタルを活用した言葉の支援

- 翻訳アプリを多くの外国人や日本人に日常的に活用してもらえるよう、活用促進のための周知・啓発をする。

### ○「やさしい日本語」の浸透

- 外国人と日本人の双方に「やさしい日本語」を普及啓発させるための活動を実施する。

### ○互いの言語に興味を持てる環境づくり

- 日本人や外国人それぞれの文化や習慣について、お互いに知ることができる交流・学びの場を設置する。

### □外国人が容易に情報収集できるサービスの提供

- 外国人用に行政サービスの一覧をわかりやすく記したマニュアルを作成し、区ホームページや転入時における配付はもとより、デジタルを活用した周知など、あらゆる機会を通じて情報提供する。

### ◇様々な特性を持った外国人の居場所づくり

- 児童館や図書館など既存の施設を活用し、交流の場を設ける。
- 国籍や年齢が異なっても仲間となって楽しく遊び共に過ごせるようなイベントを実施する。
- 共通の興味や課題を持ったあらゆる人が、国籍関係なく自然と集まれるような空間をつくる。

## 6 参画と協働の推進

### 大使館とのさらなる継続・強固な連携

- 各国と相互の文化や習慣について情報交換し、相互理解を深めていく。
- 区から大使館を通して情報発信してもらうとともに、大使館からの情報を区民へ発信する。

### 民間企業との連携

- 企業等との連携により、一般区民向けに、多様性に係る研修あるいはセミナーを開催する。

### 町会・自治会との連携

- 町会・自治会主催のイベントに参加を呼び掛ける。

### 関係機関との連携

- 社会福祉協議会等、地域の団体が主催する地域のイベント情報を案内する。

第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境・リサイクル分野】

第4グループ  
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】

## 1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

### 「伝統とモダンが調和した文化芸術が身近に香り、誰もが心の豊かさを育めるまち」

世代や国籍、障害の有無などに関わらず、子どもから大人まで日常の中でさまざまなアートに触れる機会があり、オープンな環境の中で文化芸術活動家がいきいきと力を発揮し、文化芸術を創造できる「港」となれるようなまちを目指す。

## 2 踏まえるべき社会変化

### 国際情勢の変化

- 為替や物価の変動、新型コロナウイルス感染症の発生など、国際情勢が変化している。
- 国際情勢の変化が、日常生活にも大きな影響を及ぼしている。

### 価値観や生活様式の多様化

- 戦争や新型コロナウイルス感染症の発生など、困難な状況に直面し、あらゆる人々の価値観がより多様化している。
- 新しい文化芸術が生まれ、人々の生活様式も多様化していく中で、伝統的な文化芸術に触れる機会が減っている。

### デジタル化

- 情報のデジタル化が進み、発信の場が広がっている。



### 3 実現に向けた課題

#### ○活動する機会・触れる機会が減少

- ・新型コロナウイルス感染症等の影響により、文化芸術の活動の機会が不足している。
- ・区民等が文化芸術に触れることができる機会が少ない。

#### □文化芸術活動にチャレンジしやすい環境が必要

- ・補助金など、既存の制度を相談することができる場所が不足している。
- ・円安等により海外の芸術家の招へいが難しい状況もあり、国内の文化芸術活動家の育成が必要となっている。

#### ◇文化芸術に関する情報発信の方法

- ・文化芸術に関する情報が発信はされているが、情報が多すぎて把握できない。
- ・区民等が興味を持っている分野の欲しい情報が届かない。

### 4 施策の方向性

#### ○文化芸術活動家や区民等に向けた機会を提供する

- ・さまざまなアプローチで活動の機会を提供する。
- ・区民等が時間や場所に捉われることなく、文化芸術に触れることができる機会を増やす。

#### □文化芸術活動家への支援や相談場所の充実

- ・活動するに当たって、創造の場とさまざまな相談をすることができる環境を整備する。

#### ◇文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信

- ・既存の発信方法の見直しや新たな情報伝達手段を検討する。

## 5 具体的な取組

### ○文化芸術を創造し、享受できる機会の創出

- 区有施設において、区ならではのイベントを企画・実施する。
- 区内のさまざまな場所・空間において、文化芸術を感じることができる機会を創出する。
- デジタルの技術により、時間や場所に捉われることなく、文化芸術の取組を発信できる環境を整備する。
- 障害などさまざまな背景を持った人も参加できる機会を創出する。
- 子どもが伝統的な文化芸術の取組に触れることができる機会を創出する。
- 伝統と新しい文化を融合させるような機会を創出する。

### □文化芸術活動家がチャレンジしやすい環境の整備

- 文化芸術を創造する場を設ける。
- 補助金等による継続的な支援を実施する。
- 文化芸術について、プログラムなども相談できる場を設ける。
- 区の後援名義の申請方法など、行政手続きを支援する。

### ◇文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信の工夫

- 文化芸術に係るイベントの情報が確実に伝わるよう、映像による広報など工夫する。
- 文化芸術に触れる機会がないという人々に対しても情報が伝わるよう工夫する。
- 区民の文化芸術のニーズをデータベース化し、イベントにつなげていくような仕組みを構築する。

## 6 参画と協働の推進

### 大使館と連携した情報発信

- 大使館と連携し、動画を SNS で発信するなど外国人にも文化芸術の取組が伝わりやすいよう工夫する。

### 他自治体との連携

- 他自治体と連携して、文化芸術の取組を発信できる機会を創出する。

### 関係機関との連携

- 社会福祉協議会等、地域の団体が主催する地域のイベント情報を案内する。

# 開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年10月6日(木) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局紹介</li> <li>グループ会議の進め方について</li> <li>分野における現状と課題について</li> <li>検討テーマの選定</li> <li>リーダー、サブリーダーの選出</li> </ul>
第2回	令和4年10月19日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回グループ会議の振り返り</li> <li>検討テーマ「外国人へのサポートの充実」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討</li> </ul>
第3回	令和4年11月1日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回グループ会議の振り返り</li> <li>テーマ「外国人へのサポートの充実」に関する議論 これまでの対話の共有 区民参画の検討</li> <li>文化芸術分野における現状と課題について</li> <li>テーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題</li> </ul>
第4回	令和4年11月15日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」に関する議論 具体的な取組と区民参画の検討 施策の方向性</li> </ul>
第5回	令和4年11月29日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回～4回目の内容確認について</li> <li>テーマ「外国人へのサポートの充実に向けた取組と課題について」のまとめ</li> </ul>
第6回	令和4年12月13日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」のまとめ</li> </ul>
第7回	令和4年12月27日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>提言書（案）の説明</li> </ul>
第8回	令和5年1月10日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>提言書の確認について</li> <li>「提言にあたって」の確認について</li> <li>提言式について</li> </ul>

第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境・リサイクル分野】

第4グループ  
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】